

教育及び実践の課題

新生児栄養における母乳栄養の利点はよく知られている。また、NICUに入院する早産低出生体重児への母乳栄養のもたらすメリットの大きさも指摘されている。産褥早期の母乳は栄養価に優れ、免疫物質も多く、出産直後からの母親への適切な母乳育児支援も重要である。特に母子分離状態ですぐに直接授乳ができない母親には、定期的な搾乳刺激による母乳分泌促進、母乳分泌維持のための支援の必要がある。母乳栄養の利点を理解していても、母乳栄養の確立は容易でないとされており、母乳育児へのNICUに入院する子どもの母親への母乳育児への効果的な戦略が求められる。

活用した論文の概要

早産極低出生体重児への母乳の提供は健康利益に有意に関係する。不運にも、これらの脆弱な児への母乳は多くの場合、母乳の分泌不足によって制限されている。いくつかの介入は、極低出生体重児 (Very Low Birth Weight: VLBW 児) の母親の乳汁分泌量を増加させることに関して研究されたが、介入の有効性に関して不明瞭である。このシステマティックレビューの目的は、VLBW 児の母親の乳汁分泌量の改善を目標とする特定の搾乳戦略に関するエビデンスの評価であった。方法は、公表された参考文献、電子データベース、学位論文および論文、選択した会議録は極低出生体重児 (VLBW 児) をターゲットに母乳量を結果とする搾乳技術を研究知見の目標とし、検索された電子データベース PubMed、CINAHL、Scirus、Intute、ナレッジ科学知識ウェブ 1980 年～2011 年の間に公表された論文記事の参考文献リストで行われた。データベースは、次の用語の 1 つ以上を含む論文が検索された：VLBW/早産児、母乳、人乳、搾乳、分泌量、母乳育児、カンガルーケア、乳汁分泌。また、英語で公表され VLBW 早産児を対象にした搾乳技術および(または)カンガルーケアを含み、母乳量の結果を示した研究を含んでいる。

結果は 12 の研究が評価の包含基準を満たした。分析では VLBW 児の母親の乳汁分泌量増加のため、1. 搾乳頻度、2. 出産後の搾乳開始のタイミング、3. カンガルーケアの提供、4. 順次的搾乳対同時搾乳、5. 搾乳器のセッション時間、6. 使用される搾乳器のタイプ、7. 手搾りの 7 つの戦略とエビデンスレベルを明らかにした。

教育及び実践への活用

レビュー結果は「NICUに入院した新生児の母親のための母乳育児ガイドライン」に関連している。看護統合実習において、学生が看護実践のエビデンスとして、この知見を対象者の母乳育児支援に活用し、搾乳回数及び母乳分泌量増加の結果が得られた。1 つの事例ではあるが母乳育児の支援効果を確認できた。また、周産期保健看護Ⅱ、周産期保健看護演習、周産期保健看護実習Ⅱで母乳育児支援の知識として、レビュー結果を紹介している。

参考文献

Strategies to Increase Milk Volume in Mothers of VLBW Infants
The American Journal of Maternal Child Nursing (MCN), 2013 Nov-Dec; 38 (6): 385-90.
Leslie A., Parker, PhD, NNP-BC, Sandra Sullivan, MD, Charlene Krueger, PhD, ARNP,
Teresa Kelechi, PhD and Martina Mueller, PhD
